

文芸欄



俳句

紅梅会（東灘区）
旅路行く岬の原や吾亦紅
寂光の夕べ夜を曳きて桐一葉
秋葦の匂ひの中の白川郷
ゆらゆらとコスモス揺れて風の色
煮物する母を包みて夕月夜
語り合ふ友と夕月明りかな
公園にて賑やかな子の秋の声
偲ぶれば星の増えゆく夕月夜
宝愛句らぶ（中央区）
入日さす軒下赤し柿すだれ
ちびちびと大人の時間新酒飲む
鼻歌とめざし片手に新酒かな
お互ひに故郷自慢新酒酌む
墓参り畦道で待つ彼岸花
老い寄れば歳の話よ新酒酌む
軒先の杉玉蒼し歩も軽し
耳澄ますハタと止まった秋の虫
山寺の梵鐘釣瓶落しかな
梅の美会（兵庫区）
物価高食欲の秋腹八分
今朝の秋一雨走り夕べ待つ
古家に来客ありておでん食う
朝寒や丹波杜氏の初仕込み
小春日や道路工事の意気揚がる
立冬やぶらんこ漕ぐ子見ている子
青葉クラブ（北区）
老いの身に一枚羽織る夜寒かな
仕舞風呂外は風ざわめきて
秋夕焼燃えて燃えて山の端に
高原ささゆり会（北区）
銀杏を干し下される手の温し

美恵子	朋子	早智子	里子	比佐美	扶喜子	松子	恵子	和子	悦子	千枝子	道子	恵子	和子	哲男	啓臣	山口茂子	岡田富恵	藤井歌子	栗野富江	山田朝子	藤田ユイ子	馬場みつえ	山本恒雄	前川弘子	てる子
-----	----	-----	----	-----	-----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	------	------	------	------	------	-------	-------	------	------	-----

トタン屋根メロディ奏で踊る電
むらさきの有明に出て冬の月
曲がるたび香り繋がる金木犀
遠雷や墨絵ぼかしの流れ雲
ひまわり句会（北区）
知らぬ間に白からピンクに酔芙蓉
老ひてなおよ紫の世話や秋の風
ひよどり台句会（北区）
食の秋感じぬままに通り過ぎ
風立ちて稲穂うねりて黄金なみ
燃ゆるごと風にも凜と葉鶏頭
暮れてより月待つ心生まれけり
北斗句会（北区）
句作りの歳月重し十三夜
句碑訪ね城下を一日獺祭忌
徳利の括れ懐かし夜寒哉
愁海棠無住となりし尼の寺
自販機のコーヒー熱し冬隣
和太鼓の少女の無心里祭り
水郷に軋む櫓の音蘆の花
宵寒や湯呑の肌あたたかき
愁海棠賽の河原に咲き乱れ
膝に猫たがひに温む夜寒かな
年毎に花の増えたる愁海棠
福寿草句会（須磨区）
千鳥足家路の遠く虫の秋
秋灯やロマン小説エンドまで
蓑虫や雨は凌げど風如何に
台風の手いよいよただならぬ
多聞台ときわ会文芸部（垂水区）
故郷に親類集いて餅を搗き
白に杵埃かぶりて出番待つ
遠くからかすかに聞こゆ餅の音
餅つきや若衆自慢の力こぶ
縁側につき立ての餅並びおり
回帰線こえて仲間で餅をつく
桃山台クラブ文芸部（垂水区）
おじぎして迎えられたる萩の寺

南久美子	松村二三枝	若林節子	山下久一	石井敏子	辻寿賀子	塩見光子	筒井豊子	中井光子	矢谷登美子	藤井久美子	秋山弘之	川原正	岸下庄二	金行隆	久松礼子	増田嗣夫	黒田久江	北條幸夫	松本洋子	脇坂有多子	林慎一	岩田美代子	上原綾子	松下修二郎	中村佳代子	大畑留理子	樋山隆夫	山本雄二郎	久下順司	木村敏博	田畑美恵子
------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	------	-----	------	-----	------	------	------	------	------	-------	-----	-------	------	-------	-------	-------	------	-------	------	------	-------

朝ドラに涙にじませ捲る秋
きらく句会（西区）
色を脱ぎ地に還り行く曼珠沙華
からす瓜蔓にすがりて風にあり
明石沖漁船並走冬隣り
鈴虫を聞きつつ二人夕の膳
秋初め兵庫運河にエイ泳ぐ
晩学の口笛聞こゆ星月夜
月が丘むつみ会（西区）
朝光あび露に光るや樹々美なり
初霜や野はひと色に輝けり
◆個人
仲間呼び餌を食る寒鴉
敬老会目や歯の話はずんずん
京に来て早も時雨に会ひにけり
有馬川しぶきを浴びて水引草
マリリンの赤い口紅曼珠沙華
早世の父に蓑虫鳴く郷里
除夜の鐘過去と未来に思いのせ
仁王門訪ねて廻る寺小春
明石駅溢れ出たるは懸崖菊
秋近し思い広がる雲の筆
脚川に思案深げな冬小鷺
叢に萩の赤ちゃん咲きそめし

大上昭敏	森本珠実	山本スミ子	大橋治子	喜田弘征	阪本道子	田野湯仙	藤森勝子	川上富範	北田建樹	山上幸子	竹村良子	山田キミ子	福本和恵	高橋純子	藤田恵子	山田としゑ	小幡美沙子	芝田律子	寺岡洋子	濱頭ミノル	荒木宗Q	京念久美子	笹岡淑子	杉尾悦子	大和ケント	三茶	かほう	あきら	とし子	まり子
------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	-------	-------	------	------	-------	------	-------	------	------	-------	----	-----	-----	-----	-----

とっておきの作品

2023年 卯の年

【北区】
塩田福寿会
北野 利一（原画・スケッチ）
北野ひとみ（彩色・作品仕上げ）

2023

「とっておきの作品」募集

会員の皆様から、絵はがき&色紙絵を募集しています。必要事項を記入したものを同封の上、作品をお寄せ下さい。

必要事項
①氏名（ふりがな） ②クラブ名
③題名 ④郵便番号
⑤住所 ⑥電話番号
※葉書サイズ（100mm×148mm以内）・色紙サイズ（242mm×272mm以内）をお願いします。それ以外は受付出来ません。
※作品は随時ご返却いたしますが、長期間お預かりする場合がありますのでご了承ください。
※作品は丁寧に扱いますが、損傷については理由のいかんにかかわらず、一切の責任は負いません。
宛先 〒650-0016 神戸市中央区橋通 3-4-1
KOBEシニアクラブ
「とっておきの作品」係

◆個人

出逢いから似合い夫婦に年月で

故郷のあの子も見ている冬の月
貯金ない体脂肪なら大富豪
魅力持つ便利で可愛い民芸品
知る権利血税の使途不明金
元旦に残りそば食う老母あり
運動会マスクを越えて兄らの声
久しぶりどうぶつ大国こんにちは

へなぶり

早く出て車庫で小銭が見つからず
後ろの車百円あげる

まさこ

（東）	早川キミエ	（東）	増田芳之	（北）	かんいち	（北）	北野利一	（北）	宮内美栄子	（垂）	小高肇	（西）	大島喜久子
-----	-------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	-------	-----	-----	-----	-------

（北）	清水久子
-----	------

◆個人

小夜しぐれ独り寝れぬ胸に降る故郷の屋根の遠き日の音
路地裏で互に会釈傘かしげ笑みを返してそぼろ降る糸に
ありがとうマイナポイントスマホPAYに二つ覚えた楽しく使おう
レンタルの着物姿で古都京をそぞろ歩きの若き女達
新聞とテレビ見て吠え涙する八十路の老女ここに健在
「どうしてる？」受話器の向こう君が声遠きにありて近しい友よ
紅葉の気配うれしきうら六甲まつたけ山にも人のにぎわう
好きなこと好きなだけける日々となり頭も心も弛みてきたり

（灘）	上田節子	（中）	水口敏子	（兵）	大賀清子	（須）	江口啓子	（北）	植田きみ子	（北）	箱守喜久子	（北）	眞木香代子	（西）	松浦妙子
-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	------

あとがき

カメラを構え、ファインダーを覗き込むと、フレーム越しには、いつも、元気な会員の姿が、その温かい笑顔に励まされます。
一昨年は、コロナ禍の影響で思うように活動できませんでしたが、昨年は感染予防対策と工夫したことで活動も活発になってまいりました。
今年は「卯年」。市老連や会員みなさまの「飛躍」「向上」を願っております。また、新しいことに挑戦するのに最適な年とも言われています。私も一つ新しいことをとを考えているところです。みなさん良いお年を。